



# 知の探究と人格形成 未来を拓く人材を東北から

## 熱中と探究のフィールド アーバン・ワンキャンパス

五橋キャンパスの開学から3年目を迎える。アーバン・ワンキャンパスのめざした大学像が形となって現れてきていることに誇らしい思いです。

その一つは、利便性の向上により県外の自宅からも通学しやすくなったことが挙げられます。自宅生は卒業後も地元に高い関心を持つ傾向があり、地方創生の観点からも重要な存在です。二つめは物理的・精神的な「居場所」の創出。全学年が一つのキャンパスに集うことで、新入生が数年後の自分を想像でき意欲が向上します。課外活動の参加率も上昇しました。自由度の高い自習施設「ラーニング・コモンズ コラトリエ」は好評で多くの学生が利用しています。今、力を入れているのは、学生が特性を活かしてサポートしあう「ピア・サポーター制度」です。学生生活やIT、文学、国際交流など多彩な分野で活動が活発化。留学生との学生レベルでの交流も深まっています。やりたいことに熱中できる環境が整い、居場所としての機能が高まりました。

文理融合は情報分野を中心に推進しています。1年生は文理を問わず生成AI専門科目を選択でき、6割以上が履修。2022年に文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)」の認定を受けており、2026年には全学部で上位レベルの取得をめざします。知を探究するフィールドとして、今後も文理を結ぶ学びを提供していきます。

## 共創を深め 地域とともに歩む大学

「大学は地域の宝、地域は大学の宝」といわれるよう地域連携はとても重要です。都心部に集約したことより多彩で深まりのある取り組みが可能になり、多くの分野で共創が生まれました。地元商店街や地域の皆さんとともに創りあげる「五橋祭」、近隣小学校の大規模イベントにも利用していただける大ホールのほか、総合ボランティアステーションでは地域のニーズに沿った活動を展開。学問分野では、東京商工リサーチや東北財務局との連携、仙台市教育委員会との連携による英語教育ボランティアなど、さまざまな取り組みが挙げられます。また法人としてはベガルタ仙台との包括連携協定に基づく泉キャンパスの天然芝・人工芝グラウンド整備に加え、大学サッカー部との連携も進行中です。地元プロチームとの協働によって、本学らしく人格形成を伴うチームづくりをめざします。

## “第3の波”高度人材育成 知と技術で新たな価値を創出

本学は今、「第3の波」を迎えています。振り返って第1は、3人の校祖が本学のルーツを設立した「ウェスタン・インパクト」の波。第2は「英語の東北学院」として名を馳せた戦後の英語教育の波。そして現在、文理双方から推し進める情報教育による高度人材育成の波。今年度、大学院に開設した「経済データサイエンス専攻(修士課程)」は、社会人も対象とする経

とデータサイエンスのダブルメジャーです。成長分野の学びを掛け合せて学位を取得でき、卒業後はスペシャリストとして社会の第一線で活躍が見込まれます。2016年に開講した「コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラム」では、新たに経営ビジネスや税理士、公認心理師育成コースもスタートします。さらに2027年にはデジタル技術による地域課題の探究に特化した「未来探究学部(仮称)※」の設置を構想中です。課題先進地といわれる東北で新たな価値を創出する人材を育成します。

社会の急激な変化や困難に直面したときも、東北学院は建学の精神を象徴するスクールモットー「LIFE LIGHT LOVE」を変わらず持ち続け、139年の歴史を紡いてきました。本学学生はキリスト教による人格教育を受けて人間観と世界観を修得します。限りない可能性の中から自ら道を選び、しなやかに強く社会へ羽ばたいてくれることを願います。

※2027年4月 設置構想中



## 東北学院大学の沿革

1886(明治19)年	押川方義とW·E·ホーイ両氏の協力により、キリスト教伝道者育成の目的を持って「仙台神学校」を開校。
1891(明治24)年	校名を「東北学院」と改称する。予科2年、本科4年、神学部3年に学制変更し、近代教育機関としての形態が定まる。
1901(明治34)年	D·B·シュネーダー院長就任。「献身犠牲」のキリスト教精神をモットーとして、本学院存立の使命達成に向けて献身。
1918(大正7)年	専門部を改組し、神学科、文科、師範科、商科とする。
1941(昭和16)年	太平洋戦争が始まり、キリスト教学校としての苦難の道が続く。
1946(昭和21)年	英文科、経済科を含む東北学院専門学校を開設。米国ミッションボードとの提携回復。
1949(昭和24)年	専門学校を、教育基本法・学校教育法に基づいて大学に昇格し、文経学部(英文学科・経済学科)を設置。
1951(昭和26)年	「学校法人東北学院」設置認可。
1962(昭和37)年	大学工学部(機械工学科・電気工学科・応用物理学科)を多賀城市に新設。
1964(昭和39)年	文経学部を文学部一部(英文学科・基督教学科・史学科)、同二部(英文学科)、経済学部一部(経済学科・商学科)、同二部(経済学科)に分離。大学院文学研究科(修士課程)を設置。
1965(昭和40)年	大学院経済学研究科(修士課程)と法学部を設置。
1967(昭和42)年	工学部に土木工学科を設置。
1986(昭和61)年	創立100周年記念式典を挙行。
1988(昭和63)年	泉キャンパス開学。文・経済・法学部の教養課程を泉キャンパスに移転。
1989(平成元)年	教養学部(教養学科人間科学専攻・言語科学専攻・情報科学専攻)を泉キャンパスに新設。
2000(平成12)年	文学部英文学科、経済学部経済学科・商学科に昼夜開講制を導入。
2005(平成17)年	教養学部を改組し、人間科学科、言語文化学科、情報科学科とする。地域構想学科を設置。
2006(平成18)年	工学部を改組し、機械知能工学科、電気情報工学科、電子工学科、環境建設工学科とする。
2009(平成21)年	経済学部を改組。経済学部経済学科と新たに共生社会経済学科を設置。経済学部経営学科は経営学部経営学科に改組。経済学部経済学科、経営学科の夜間主コースの募集を停止。
2011(平成23)年	文学部を改組。キリスト教学科は募集停止。総合人文学科を新設。
2015(平成27)年	文学部英文学科の夜間主コースの募集を停止。
2016(平成28)年	ホーイ記念館竣工。創立130周年。
2017(平成29)年	工学部を改組し、電気情報工学科を電気電子工学科に名称を変更し、電子工学科の募集停止。情報基盤工学科を設置。
2018(平成30)年	文学部に教育学科を設置。
2023(令和5)年	五橋キャンパス開学。多賀城・泉キャンパスの機能を集約。経済学部、工学部、教養学部を改組。共生社会経済学科、情報基盤工学科、人間科学科、言語文化学科、情報科学科、地域構想学科は募集停止。地域総合学部(地域コミュニケーション学科・政策デザイン学科)、情報学部(データサイエンス学科)、人間科学部(心理行動科学科)、国際学部(国際教養学科)を設置。
2025(令和7)年	大学院経済学研究科に経済データサイエンス専攻(修士課程)を設置。